

広報よこすか

YOKOSUKA²⁰²⁶ 1

明けましておめでとうございます。

穏やかに新年を迎えられたことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。

今年も、一人でも多くの市民の皆様、横須賀に住んで良かったと思っただけ
よう、変化を力に変え、福祉と経済の好循環を目指し、様々な施策を展開していきま
す。特に浦賀や追浜の再開発に加え、大矢部の公園整備、上町の看護大学設置など、現在、
動き始めている大きなプロジェクトは、一日でも早く皆様に形としてお示しできる
よう、加速度をつけ進めていきます。そして何よりも、横須賀を、多様性を認めあい、
誰もが慈しみあえるまち、すなわち「誰も一人にさせないまち」とするための取り組みも、
これまで以上に全力を尽くしていく所存です。

今年一年が、皆様にとりまして、光あふれる輝かしい一年となりますよう、心よりお祈り
いたします。どうぞ今年も、よろしく願いいたします。

横須賀市長 上地克明

2026
新春
座談会

横須賀市が誇る 全国トップレベルの地域医療体制



全国に誇る横須賀市の地域医療体制。その強みはコロナ禍を経て強化された行政・医療機関の連携にあります。
横須賀市の元健康部長 森田佳重氏を聞き手に、地域医療を支えるリーダーたちと市長が、あゆみと展望を語り合いました。
健康総務課 ☎824-7502

市長とリーダーたちが語る
地域医療のこれまでとこれから

夜間・休日も安心 横須賀市の医療体制

聞き手 本日は、地域医療をテーマとした新春座談会です。市民の皆さんの健やかな一年を祈念し、まず初めに、年末年始も安心して医療が受けられる体制について、救急医療センター顧問も務める高宮会長に伺います。

高宮 救急医療センターは、年末年始、24時間体制で患者を受け入れています。年間の受診者数は、関東甲信越1都9県の301施設中で最多です。加えて、治療レベルの高さ、市からの補助を受けない良好な経営状況などが評価され、昨年は神奈川県から「救急医療功労者」として表彰していただきました。今後も持続的に安定した運営を目指していきます。

荒木 救急医療センター内で調剤し、24時間体制で薬を処方しています。年末年始の患者数は1日に1,000件を超える場合もあり、私も対応にあたっています。毎週日曜日には市内の薬局が当番制で開局しているので、処方箋を柔軟に受け付けられる体制も整っています。

半澤 急な歯の痛みなどに対応できるよう、休日急患歯科診療所も同様に、日曜・休日の診療にあたっています。特に年末年始は患者数が増えるため、スタッフを増員し、体制を強化しました。21時まで開院しています。

上地 本当にありがたく、心強いです。この年末もありがとうございます。市民の皆さんの命と健康を守ることは、行政として最も重要な役割です。三師会の先生方と「四位一体」の関係が築けているからこそ、あらゆる事態にも柔軟に対応していけるのだと思います。



誰もが安心して受診できる
休日急患歯科診療所内の様子

コロナ禍での連携 地域医療体制の強化へ

聞き手 四者の連携の強さを後押しした出来事として、新型コロナウイルス感染症の対応が挙げられると思います。コロナ発生の一報を受けた際、市長のお気持ちはいかがでしたか。

上地 「自分が守らなきゃ、誰が守る」と覚悟が湧きました。そして、行政が一つになって先頭に立たなければ、医療現場の皆さまのご協力は得られないと。市長



笑顔あふれる和やかなムードで座談会がスタート

出席者紹介

行政運営、地域医療に携わる代表者が一堂に会し、
新春ならではの座談会を実施



横須賀市医師会長 高宮 光 氏

救急医療センターの運営など、最前線で市民の健康と命を守る。



横須賀市歯科医師会長 半澤 栄一 氏

市内歯科医師と連携し、休日急患歯科診療所の運営などに取り組む。



横須賀市薬剤師会長 荒木 稔 氏

安全で効率的な薬剤管理や適正供給などを目指し、医療機関と連携。



横須賀市長 上地 克明

地域医療の充実、全国に誇れる医療体制を三師会と共に推進。

としての役割を強く認識した瞬間でもあります。

高宮 医師会では、まず県内に先駆け、PCR検査センターを設置しました。最初の2件の検査結果がいずれも陽性で「これは本当に身近な脅威だ」と感じたことを覚えています。厳重な防護服に身を包み、検体を採取していた現場には、常に大きな緊迫感が漂っていました。その後は発熱外来を設け、延べ44,000件の受診があり、ピーク時の陽性率は約70%にも達しました。さらに、横須賀独自に中和抗体療法の体制を迅速に整え、県全体の10倍近い実績の約2,200件に対応し、感染拡大防止に努めました。

半澤 感染拡大に際し、ワクチン接種には行政や医師会の多大な協力があり、大変感謝しています。市内の多くの歯科医院では、感染対策強化のための機器などを導入し、コロナ前と変わらず診療を継続しました。クラスター発生は1件もなく、歯科医師会員の感染者はわずか2人とどまりました。

荒木 救急医療センターでは、院外にも薬剤師を配置し、多くの患者の対応にあたりました。また、患者の自宅ポストへの薬の配達に加え、電話での服薬指導にも注力しました。100段以上の階段がある住宅も多いため、配達を決して容易ではありませんでしたが、横須賀市独自の配達費用の補助に支えられました。



全国に先駆けたさまざまなコロナ対策は「横須賀モデル」と呼ばれ、注目を集めた

市民の命を守る最前線 救急医療センター



比較的軽症な患者に対し、夜間・休日に応急的な処置を行う1次救急として屈指の受診者数を誇る。内科、外科に加え小児科には小児の専門医を配置した安心の診療体制で、効率的な人員配置や薬剤整理などを徹底し、持続可能な救急医療を実現。

救急医療センターの沿革



1977(昭和52)年 田戸台の旧医師会館内に開設

1980(昭和55)年 三春町に新築移転

2014(平成26)年 現在の新港町に新築移転

数字で見る、救急医療の実績



救急車の受入数は県内トップクラス。救急車で搬送される患者の9割以上をセンターで処置し、病院への患者の転送を減らすことで、病院はより高度な医療を必要とする救急患者への対応が可能に。開設以来、地域医療に貢献し、他の初期救急医療施設の手本ともされる。

救急医療功労者として神奈川県が表彰

これまでの実績、地域貢献と先駆的運営が評価され、昨年には神奈川県から「救急医療功労者表彰」を受賞。救急医療の発展に努め、特に功労があり、他の模範となる施設などに与えられる名誉ある賞。補助金や委託料に依存せず、診療報酬のみで運営している全国でも数少ない施設であることも評価の対象に。